

「開発は不可能を可能にする」



岡田 民雄  
おかだ たみお  
【日本ルツボ元社長・社友】

私は「開発は不可能を可能にする」という言葉を座右の銘にしています。この言葉は慶應義塾大学元塾長の小泉信三先生の「練習ハ不可能ヲ可能ニス」という言葉をヒントにして、私がつくったものです。

開発において大事なこととして、私は「た、ち、つ、テ、ト」だと言ってきました。「た」は体験、「ち」は知識・知恵・チャレンジ、「つ」は続ける、「テ」はテスト、「ト」はトライです。

私は文学部を卒業しましたが、常に新製品開発のことを考えてきましたから、社内外から「文科系技術者」と呼ばれることもありました。

新製品開発を進める時には、いつも製品を使うお客様の立場に立って、「こんなものがあつたら便利だろうな」という目標を掲げ、アイデアを出し、専門の技術者と組んで開発をすることを心掛けていました。

そうした開発した製品は、例えば珪瑯ではそれまで、連続溶解が不可能だったのですが、「メルキーパー」というアルミの溶解炉を開発したことによって、連続溶解が可能になりました。まさに「開発は不可能を可能にする」の実例だと思っています。

また、製品開発、事業経営、そしてスポーツにおいて大事だと考えているのが「カン」です。カンというものは、その道を究めた人のみに与えられる「勲章」だと思っています。

「カンピューター」と呼ばれた長嶋茂雄さんでも、野球の世界ではカンが働いても、他の分野では無理だったでしょう。

長嶋さんとはご縁があります。私の兄は事業の傍ら、地域

ボランティア活動をしていました。その一つに母校である佐倉高校野球部の臨時コーチがありました。その時の野球部の選手の1人が長嶋さんだったのです。そのご縁があり、長嶋さんと兄は親しい関係にありました。

長嶋さんが24歳の年男の年（1960年＝昭和35年）、成田山に節分の「豆まき」に来ました。兄はスポンサーになり、成田山の近くの旅館に席を設け、私はホスト役を務めました。

齋戒沐浴のため、私は長嶋さんをお風呂にご案内し、2人で行りました。ところがそれを知ったファンの方々が後からぞろぞろ入ってきたので、急いで出た、ということもありました。

その1カ月後、私は九州一周のバイク旅行に行きました。途中、平和台球場で巨人対西鉄のオープン戦を長嶋さんの招待券で観戦しました。また、旅館も紹介していただき、私にとって大変貴重な体験になりました。

私は日本ルツボの社長に就任した際、経営理念と社訓をつく

りました。100年を超える歴史を持つ会社にふさわしいものにしたと考えたものです。経営理念は「わが社は創造性豊かな活力に満ちた役員により伝統を守りつついかなる時代、いかなる環境にも適合する会社を目指します」、社訓は「人に笑顔・仕事に挑戦、社員に安心・社会に貢献、顧客に満足・会社の利益」です。

私が社長を務めた時代はバブル崩壊後の不況で、苦しい日々が続きましたが、役職員の献身的な働きや、銀行始め外部の方々のご協力、ご支援で会社を生き永らえたことは、本当にラッキーなことだと感謝しています。また、昨年までの日本ルツボは大久保正志社長の下、順調に経営が行われてきましたが、足元のコロナショックの中で厳しい経営を強いられています。厳しい環境だとは思いますが、これからも社員一丸となって環境に適合し、事業に邁進していただきたいと願っています。